

モ ツ ゴ

Pseudorasbora parva

種名



分類

コイ科ヒガイ亜科モツゴ属

俗称

クチボソ(東京)、ヤナギモロコ(岐阜)、イシモロコ・チョウチンモロコ(滋賀)、ヤナギハヤ(群馬)、ミゾゴイ(奈良)、ダゴバエ(筑後川)

形態的な
特徴

口が小さく、やや上向きについているいわゆる「受け口」で体側には一本の黒色縦条が入るが生息環境や成長段階などにより異なり、全くないものも見られる。産卵期のオスは全体的に黒っぽい婚姻色になり、吻部には追星が現れる。全長は8cmほどになる。ウシモツゴ、シナイモツゴに似るが、本種は側線が完全で、他の2種は不完全なことで判別できる。

分布

関東以西の本州・四国・九州が天然分布だが、現在ではコイやフナの放流に混じって日本全土に分布を広げた。

繁殖行動

産卵期は4～8月頃で、ヨシなどの茎やこぶし大の石の表面に卵を産みつける。オスは卵を産みつける場所を丹念に掃除し、メスが卵を産みつけた後も卵の表面のゴミを取り除くなどして、卵を保護する。この習性から「持つ子」の名前が付けられた。約一年で成熟する。

生息場所

湖沼や池、河川の下流域、またはそれに続く細流などにすみ、泥底の淀みの部分に生息する。平野部の用水路や都市部の河川にも生息する。

食性

雑食性で底生動物や付着藻類などの他コスリカ幼虫も食べる。

生息環境へ
の配慮事項

オスが卵についたゴミなどを掃除する習性により、濁水でも孵化率が高いこともあり都市の河川で見られる代表的な魚にもなっている。また、コイやフナの放流に混じって、本来生息していなかった水域に本種が放流され、シナイモツゴやウシモツゴの生息域で影響を及ぼしている地域もある。コンクリート護岸された河川や下水の流入する河川でも生息することができるため、生息数が激減する心配はない。しかし、産卵期がウシモツゴ、シナイモツゴと重なる琵琶湖産などの産卵期の早いモツゴが、コイやフナの放流に混じってそれらの生息水域に移入し、生息を脅かす可能性がある。

引用文献：http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変